

Q 32 日本の学生は、「大学に入学しても、アルバイトばかりしたり、遊んでばかりいて、まじめに勉強しない」と言われていますが、このようなことに対して各大学ではどのように取り組んでいるのでしょうか？

A 各大学では、教育内容や方法等の充実改善を図り、学生の興味・関心を引き出せる授業運営に努めていますが、さらに十分な履修指導や厳格な成績評価を行うことなどにより、学生が大学で十分な付加価値を身に付けて卒業するよう様々な取組を進めていくこととしています。

大学に関する情報提供の推進

各大学では教育研究の内容に関する情報など、進路選択に資するための情報提供を行っています。学生においても、大学進学を目的を自覚し、適切な大学を選択するとともに、入学後においては主体的に勉学に励むことが望まれます。

授業方法等の充実改善

各大学では、カリキュラム編成の改善や特色ある授業科目の開設などにより、教育内容の充実が進められています。また、シラバスの作成・公表、少人数教育の拡充、多様なメディアの活用、高等学校での学習内容に配慮した授業の実施など、授業の質を高める様々な工夫に取り組んでいます。

今後さらに、教室外の学習を学生の自主性だけに任せるのではなく、学生が事前に行う準備学習や事後の復習、レポートの提出などについても十分な指示を与えるなど責任ある授業設計を進めていきます。

ファカルティ・ディベロップメント

教員自身が自己の授業能力の向上のために努力し、学生の学習意欲を喚起するような授業にするために、教育内容・方法についての組織的な研究・研修（ファカルティ・ディベロップメント）を行っています。

厳格な成績評価

あらかじめ学生に対して成績評価基準を明示した上で、厳格な成績評価を実施していきます。成績評価基準は、学期末の試験のみでなく学生の授業への出席状況、宿題への対応状況、レポート等の提出状況等、日常の学生の授業への取組と成果を考慮するなど、それぞれの授業の目的等に沿って設定します。

取得可能単位数の上限の設定

講義等において必ずしも準備学習が要求されない、授業への出席状況が確認されない、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から、学生が過剰な履修科目登録をし、安易に単位を修得しているケースもあります。このため、1年間あるいは1学期間に履修科目登録できる単位数の上限を各大学で定めていきます。

学習環境の整備

学生が主体的な学習に十分取り組むことができるようにするため、図書館の座席数や必読図書の所要冊数の確保、開館時間や開館日、貸出期間など施設・設備の利用面を含め、学習環境の整備を進めていきます。

自己点検・評価及び第三者評価

大学がその教育活動等の状況を公表した上で自己点検、評価を行ったり、学生による授業評価を行ったり、産業界などの外部者による検証などを行い、その結果を大学の教育の質の向上に役立てています。